

米国カリフォルニア州での牛乳食育と学校給食の取り組みについて

IDF「酪農乳業の持続可能性見通し」第 5 号から

国際酪農連盟 (IDF) は、「酪農乳業の持続可能性見通し (Dairy Sustainability Outlook)」第 5 号 (以下「報告書」という) を 7 月に出版し (*1)、IDF のいくつかの加盟国での酪農乳業の持続可能性に関する取り組みについて紹介した。持続可能性は、社会面、経済面、環境面、栄養面などの側面から捉えられており、紹介された全 11 件の取り組みごとに国連「持続可能な開発目標 (SDGs)」との整合性が提示されている。取り組みの中には、複数の目標にまたがるものもあるが、SDGs の目標 13「気候変動に具体的対策を」に関する事例が 8 件と最も多く、次いで SDGs の目標 12「つくる責任、つかう責任」が 7 件であった。なお、国連のフードシステムサミット 2021 で持続可能な食料システムへの転換を図るための重要なゲームチェンジャーになると指摘された「学校給食」に関する取り組みとして、SDGs の目標 4「質の高い教育をみんなに」に関連する事例紹介も 2 件ある。本稿では、この中から、米国カリフォルニア州の酪農乳業団体が新型コロナ禍で立ち上げた酪農や牛乳をテーマとする食育と学校給食に関するイニシアチブ Let's Eat Healthy について以下に内容を紹介する。

はじめに

国連の「持続可能な開発目標」を達成するには、持続可能で強靱性のある食料システムを構築するための、協動的で多部門にわたるアプローチが必要である。食料不足と栄養不良の発生率が高まる中、持続可能性の目標を達成しながら、食事の質を高め、栄養の安定供給を確保するための解決策が必要になっている。持続可能な栄養は、健康的で栄養価の高い食品を入手しやすく、手頃な価格で、文化的に適切なものにすることや、環境資源の保護と地域社会を支援することに重点が置かれている。しかし、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって引き起こされた公衆衛生危機は、サービスの行き届かない人々の格差を拡大し、特に子どもたちへの栄養の安定供給を支援するための課題を浮き彫りにしている。幼年期の栄養は、学校や人生で成功するための能力に影響を与え、将来の健康状態が決まる。学校はコミュニティの中心であり、子どもたちや家族にサービスと重要なセーフティネットを提供している。

カリフォルニア酪農評議会 (Dairy Council of California) は、生涯にわたる健康的な食習慣の追求を通じて子どもたちやその家族の健康を高めるため、他の地方、州、国内および国際組織・機関と協力する団体である。同団体は、エビデンスに基づく栄養教育資料、体験学習「農場から学校へ (Farm to School)」、専門家育成プログラム、およびオンライン資料の提供を通して、カリフォルニアおよび米国全体で数多くの子どもたちと家族を教育し、地域の健康と持続可能な栄養に貢献している。

2020 年 6 月、カリフォルニア酪農評議会は、Let's Eat Healthy を立ち上げた。これは、教育者、医療専門家、変革者、コミュニティリーダーを集めた子どもたちと家族の健康を高めるイニシアチブである。Let's Eat Healthy は、健康的な食習慣を教え、動機付けをし、健康的で好ましい食品をカリフォルニアのすべての多様なコミュニティが手頃な価格で入手できるようにすることで、コミュニティの健康を擁護するための多くの専門分野にわたる調整、協力、共創を呼びかけている。

新型コロナ禍でのイニシアチブ Let's Eat Healthy の立ち上げ

新型コロナウイルス感染症のパンデミックが始まった時に学校が突然閉鎖されたため、数多くの子どもたちの食事サービスが中断された。カリフォルニア酪農評議会は、家族や学校のコミュニティを支援するため、カリフォルニア乳処理業者委員会 (California Milk Processor Board) と提携して、給食施設や州全体の啓発キャンペーンに関する情報サイトのランディングページを作成した。このサイトは、州内の給食施設の場所情報を提供し、最終的にはフードバンクの場所やオンライン学習の栄養資料なども閲覧できるように拡充された。

カリフォルニア酪農評議会は、教育者とのパートナーシップを通じて、Let's Eat Healthy の幼稚園から高校までの教育カリキュラム (K-12) の資料を改良し、パンデミック中に子どもたちと家族が栄養教育のサポートを確実に受けられるようにした。具体的には、デジタル文書、短くて有益な動画、学年に適したクイズやゲームなど特色あるさまざまなオンライン資料が、オンライン学習プラットフォームに簡単に組み込めるように改良した。

新しい個別指導技術手引書では、教育者が資料をすばやく簡単に活用できるように、ダウンロードしてオンライン学習プラットフォームやアプリに埋め込むプロセスについて段階的に説明した。

遠隔学習への移行は、カリフォルニア酪農評議会の Farm to School プログラムである酪農移動教室 (Mobile Dairy Classroom: MDC) にも適用された。MDC は、生きた乳牛への触れ合いを含む農場体験を生徒に提供し、牛乳乳製品が農場から食卓にどのように届き、それらが健康的な食事パターンにどのように貢献するかを生徒に学ばせる体験学習プログラムである。2020

～21 学年度中に、MDC は協力して革新的な仮想フィールドトリップを開始し、従来の牧場体験と仮想農場ツアーを組み合わせた。

イニシアチブの成果

食事場所に関する情報のキャンペーンとランディングページは、カリフォルニアの学区とコミュニティにとって貴重なリソースとなり、ウェブサイトへの 46 万 7823 の個々のユーザーを含む 52 万 8797 のアクセスをサポートした。閲覧者の約 40% がスペイン語で情報を求めている。牛乳乳製品を含む健康的な食事を最も必要としている生徒たちに確実に情報を届けるこの取り組みは、個人や組織の協力的で革新的な取り組みのおかげで効果を発揮した。2020 年の全国学校給食プログラムへの参加は、カリフォルニア州では全国平均よりも減少しなかったのは、おそらくこのような取り組みが功を奏したためだろう。

遠隔教育モデルへの移行により、教師は栄養価が高く高品質の食品を含む健康的な食事パターンについて子どもたちや家族に指導し続けることができるようになった。直接会えないという難しい状況にもかかわらず、オンライン学習にリソースを適応させ、栄養について教え続ける教育者の共同の取り組みにより、2020～21 学年度中に 440 万人のカリフォルニアの生徒と家族が Let's Eat Healthy の栄養教材を利用することができるようになった。22 万 5000 人を超える生徒、家族、教室が、農場からのライブストリームの視聴を通して、酪農家や農業インストラクターと関わりを持った。

報告書の考察およびまとめ

人々が栄養価が高く文化的に適切な食品に確実にアクセスできるように支援することは、持続可能な栄養への取り組みの核心であり、栄養の安定供給を達成するために不可欠である。学

校は、特に社会経済的に恵まれない地域や食料不安のある家庭で暮らす子供たちに栄養のある食事を提供することにより、子どもの全般的な健康と福祉を支援している。学校給食プログラムへの生徒の参加は、牛乳乳製品、果物、野菜、および全粒穀物の摂取量の増加を促進する。これらの食品群は、日常的に不足している重要な栄養素の摂取をサポートしており、学校給食は多くの子どもたちにとって重要な栄養源になる。

栄養教育を行うことは、持続可能な栄養に取り組むための課題解決の一部である。教師は子どもの知識と食習慣に重要な貢献をすることができ、子どもたちが学んだスキルと積極的な健康行動は、身体的、社会的および情緒的健康、そして学業の成功をサポートする。今後は、従来の学習環境だけでなく、学校以外のチャンネルでも、子どもたちがバーチャルなリソースにアクセスできる環境を維持することが重要である。

仮想フィールドトリップは、パンデミックが過ぎても、それ以外の方法では参加できない学生の教育機会へのアクセスを増やすための重要なツールであり続ける。Farm to Schoolプログラムを通じて持続可能な栄養を教えることは、農業と生徒の実際の食生活における知識のギャップを埋めるのに役立ち、健康的な食事において農業が果たす役割への理解を高めるとともに、より多くの生徒と家族、そして世界中のコミュニティが牧場体験学習にアクセスすることができるようになる。

Let's Eat Healthy イニシアチブは、新型コロナウイルス感染症のパンデミック期間中に現れたような対応困難な問題に人々を惹きつける創造的な解決策の1つである。

パンデミック発生時の学校給食へのアクセス改善、長期休校時の栄養教育へのアクセス改善、創造的パートナーシップによる栄養教育と

食品アクセスの統合などの取り組みを通して、カリフォルニア州酪農協議会は、学校環境における栄養と牛乳・乳製品へのアクセスを改善するための解決策を見出すために、Let's Eat Healthy イニシアチブを活性化させた。

多くの専門分野によるコラボレーションにより戦略を一致させ、適応が難しい問題を克服することは、子どもたちと家族の教育、健康、ウェルネスの成果にプラスの影響を与えるという、学校環境内外の栄養ニーズを支援する機会を生み出す。急速に変化する環境で難題のかじ取りをするには、人々と組織が分野を超えて協力し、知識、経験、リソース、専門知識、創造的思考を活用する共創的な取り組みが必要である。健康的な食品と栄養教育へのアクセスを改善することは、コラボレーションを通じて行うのが最も効果的である。こうした組織の取り組みがあっても、子どもたちが確実に支援を受けて必要な栄養価の高い食品を入手できるような、革新的なソリューションを発見し状況に応じた対応ができる。

参考資料:

- (*1) <https://shop.fil-idf.org/collections/publications/products/issue-5-idf-dairy-sustainability-outlook> Issue 5: IDF Dairy Sustainability Outlook. International Dairy Federation.
 翻訳(仮訳)を次の J ミルクウェブページに紹介:<https://www.j-milk.jp/report/international/index.html#hdg2>

(資料閲覧:2022年9月5日)

(担当:Jミルク 国際グループ 新光一郎)